



# 補助教材としての『美術資料』について

『美術資料』が選ばれる理由を紹介します！



選定理由書などをお書きの際に参考にしてください。

## 『美術資料』の特質 (教科書との違い)

深める 広げる 結びつける

### ◎『美術資料』の特質を示す3つのキーワード

1

**深める** 豊富で幅広い内容の画像や情報を掲載し、美術の学びを深める

- ・美術作品や作品の制作手順など、美術・工芸・デザインに関する豊富な画像や情報を一冊にまとめた「美術事典」
- ・主体的で深い学びにつながる「試してみよう・調べてみよう」

2

**広げる** 他教科との関連、教科横断的な学習も視野に入れ、視野を広げる

- ・美術作品、形や色、光などに関して、社会科や理科、国語などの他教科の学習内容との関連、防災や安全、環境、道徳教育などとの関わりについても、内容の充実を図るとともに関連項目にマークを付けて明示

3

**結びつける** 美術の学びを身近な生活や地域社会と結びつける

- ・鑑賞ページの作品は、できるだけ国内の美術館所蔵の作品を掲載、デザインのページでは、教科書には掲載しにくい、生徒達に身近な企業のロゴや製品なども掲載
- ・県版のある地域では、特に地域の作家や美術に関わる資料を充実

### ◎教科書との役割分担

ポイント!

	教科書	『美術資料』
編集	各題材は、 <b>主題</b> を生成し、豊かに <b>発想し構想</b> を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりするなど、 <b>授業の目的に沿って編集</b>	多様な材料や用具などを使った <b>表現の技法</b> 、幅広い内容の <b>鑑賞図版</b> など、 <b>教科書で示した題材の目標を実現するための具体的な手段や方法を掲載</b>
構成	年間の教材配列、3年間の系統性など具体的な指導計画に沿って内容を構成	同じねらいの授業であっても、学校や地域によってさまざまな材料・題材などが考えられるため、 <b>網羅的に幅広くかつ具体的な図版や情報などを掲載</b> 索引を備えるなど、生涯にわたって美術を愛好するための「 <b>美術事典</b> 」的な位置付けも

## 『美術資料』Q&A

補助教材って本当に必要？ その**ギモン**にお答えします！

### Q1：教科書と『美術資料』とで同じ図版（画像）が掲載されているが…？

A1：前記の「教科書との役割分担」で示したように、授業では、教科書と『美術資料』は併用することを前提としています。代表的な美術作品や美術の事柄が双方に掲載されていることにより、それらが教科書と『美術資料』を行き来するときの手掛かり（目印）ともなります。

**Q2：『美術資料』内容について、「網羅的に幅広くかつ具体的な図版や情報などを掲載」と言っても、現在学校の授業ではほとんど行うことのない表現の題材（彫刻や版画、金工、陶芸など）も掲載する必要はあるのでしょうか？**

A2：美術・工芸作品が、どのような材料や手順で制作されるかを知ることが大切です。学習指導要領解説でも「表現と鑑賞の活動は相互に関連し合っており、双方に働く中心となる考えを明確にし、相互の関連を図りながら指導することが大切である」と示されています。

**Q3：教科書と『美術資料』との大きな違いは？**

A3：まず、美術と他の教科との違いに目を向けたいと思います。

数学などの場合、指導する先生によって指導方法は異なっても、同じ単元なら指導内容は全国的にほぼ同じです。一方、美術では、身に付ける資質能力は学習指導要領に示され共通であっても、例えば絵に描く対象や画材、制作に使用する材料などは学校や地域によってさまざまです。

前記の「教科書との役割分担」で示したように、教科書は授業のねらいを示し授業の骨格となり、『美術資料』は、その骨格に学校や地域の実態に応じた授業ができるように材料や用具、制作の手順や技法など肉付けを行う役割となります。

そのため、教科書とは別に、多様な材料や用具、制作の手順や技法などを掲載した『美術資料』が必要となるのです。

## 補助教材として『美術資料』を選定する理由

【 】は文部科学省通知の留意点との対応

学習指導要領の改訂に対応して改訂されており、「主体的で深い学び」などに繋がる問いなども示されている。

【学習指導要領等の趣旨に適合】

防災・安全教育、他教科との関連など、美術以外のさまざまな学習で活用できる。

【中学校の発達段階に適合】

豊富な図版（写真）が沢山掲載されており、授業の参考にしやすい。

- ・制作の手順は段階ごとに細かく区切り、写真と解説文で分かりやすく説明されている。
- ・二次元コードを読み取ることによって、補助資料として多くの動画コンテンツが活用できる。

【多様で公平な情報の取扱い】

生涯学習の視点でみて、座右の書として（社会科の地図帳、国語便覧などと同様に）卒業後も手元に置いておきたい「美術事典」的な存在である。

【生涯学習への対応】

1人1台のタブレット PC にも対応できるデジタル版も用意されている。

【GIGA スクール構想への対応】

【参考資料】学校における補助教材の適切な取扱いについて（通知）

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/110/shiryo/\\_icsFiles/afieldfile/2015/12/24/1365538\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/110/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2015/12/24/1365538_3.pdf)



秀学社